

情報公開内容

1 課題名：腎腫瘍に対する凍結療法の総、分腎機能に与える影響について

本研究の目的

凍結療法は、2011年に小径腎癌に対する治療法として保険収載されて以降、外科的切除が困難な腎癌を中心に普及してきている治療法です。凍結療法後の腎機能に関する報告はありますが、両腎全体の腎機能を評価したもののみで、患側の腎機能について評価がなされた報告はありません。今回我々は血液検査(血清クレアチニン、eGFR)および腎動態シンチグラフィーを用いて、術前後の総腎、患側腎機能について評価します。また腎機能を悪化させる危険因子を探ります。

本研究の対象

2016年4月から2022年3月の間で、高知大学医学部附属病院にて腎癌に対し凍結療法及び血液検査、^{99m}Tc-MAG3による腎動態シンチグラフィー検査を受けた患者様

本研究の意義

腎癌に対する凍結療法後の総腎、患側腎の腎機能を正確に把握することにより、術後の合併症の軽減や腎障害の予測が可能となると思われます。

研究の方法

腎癌に対する凍結療法前後の腎動態シンチグラフィーを解析し、術前後における患側腎の腎機能の変化を評価します。カルテを調べて調査することが主な調査方法です。調査項目は、患者の性別、年齢、採血データ、画像所見(シンチグラフィー、血管造影、CTなど)、臨床情報(既往歴、現病歴、合併症、臨床経過など)です。

[研究期間は倫理委員会承認日～2026年3月31日]

個人情報保護の方法

- (1) 対象患者さんのカルテ、画像に記載された個人情報はすべて匿名化した上で研究に使用します。
- (2) 学会誌や学会での発表等、調査結果を公表する際、個人情報は一切公表しません。
- (3) この研究で収集したすべての情報は、この研究の目的以外では使用いたしません。
- (4) データは外部と独立したコンピューターで管理し、パスワードによるログイン機能の付加、コンピューターをセキュリティーの厳重な部屋に保管します。
- (5) 収集した患者さんのデータは、研究公表後データはすべてコンピューター上から削除、書類はシュレッダー等で処理した上で廃棄します。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療などに不利益が生ずることはありません。

問い合わせ、苦情等の窓口の連絡先

783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

高知大学医学部附属病院 放射線診断科

研究責任者(担当者): 教授 山上 卓士

連絡先電話番号: 088-880-2367